薬剤部季刊誌　59　号　2021年3月発行

くすり箱

発行
桐生厚生総合病院　薬剤部
発行責任者　河井　利恵子
編集担当者　大手　直樹
矢古宇　由佳

第 59 回目のテーマは、"パーキンソン病の治療薬について"です。

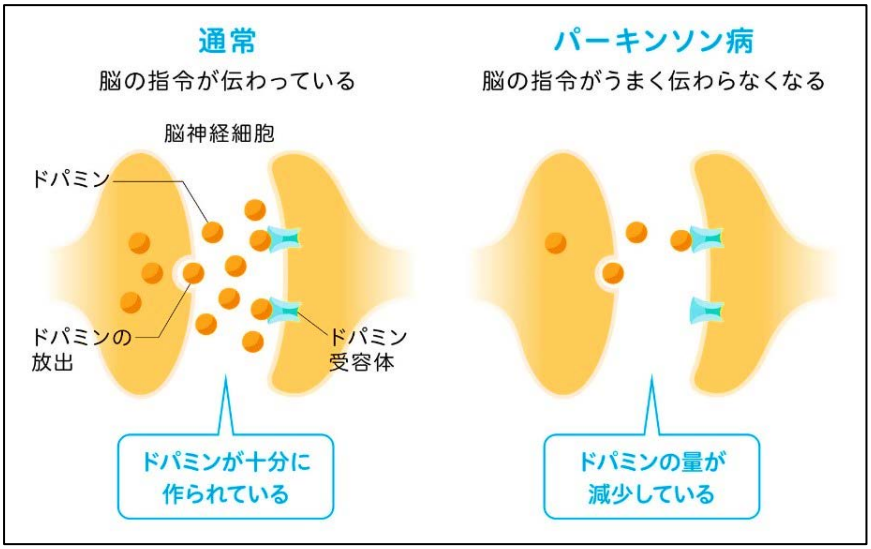
パーキンソン病は、「動作がゆっくりになる」「手足がふるえる」などの症状で始まります。症状が進むと自分で体のバランスを取ることも難しくなり、転倒を防ぐために歩行器や車椅子が必要になることもあります。しかし、近年では医療の進歩によって新薬の開発が進められており、症状を軽減できるようになってきました。パーキンソン病を発症したものの治療に取り組み、日常生活を問題なく過ごしている方は全国にたくさんいます。今回は、パーキンソン病の治療に用いられるお薬についてお話します。

どんな症状がありますか？

パーキンソン病を発症すると、体の動きが遅くなる（運動緩慢・無動・寡動）や手足がふるえる（静止時振戦）、さらに手足の筋肉がこわばる（筋強剛または筋固縮）や体のバランスが悪化して倒れやすくなる（姿勢保持障害）などの運動症状が現れます。また、運動症状だけでなく、頻尿や便秘などの自律神経症状をはじめ、不眠やうつなどの精神症状、さらには認知機能障害などもみられることがあります。

原因について

パーキンソン病の原因は現時点で解明されていませんが、異常なたんぱく質が脳内にたまることが原因ではないかと考えられています。脳に異常なたんぱく質がたまることで、脳の神経細胞が減少して、脳からの指令を伝える"ドパミン"の量が減ってしまいます。
ドパミンが減ってしまうと指令がうまく伝わらなくなり、足が動きにくくなったり、手足がふるえたりする症状があらわれます。



パーキンソン病の治療薬（当院採用薬）

お薬による治療は、脳内で減ってしまったドパミンの補充が基本となります。
様々な働きをするお薬があり、症状に応じた薬を選択して治療しています。
当院採用のお薬を載せましたので、ご確認ください。なお、（　）は後発品を表しています。

①ドパミンを増やすお薬

ドパミンはそのまま服用しても脳内に到達することができません。そのため、ドパミンの原料である『レボドパ』を服用し、脳内でドパミンに変換されることで症状が改善されます。

レボドパ製剤　⇒ ドパストン散®98.5%

レボドパ＋ドパ脱炭酸酵素（DCI）配合剤　レボドパを脳へ届けやすくする成分も一緒に含んだお薬

⇒ マドパー配合錠®、メネシット配合錠®（パーキストン配合錠L、ドパコール配合錠L）

②ドパミンを減らさないようにするお薬

MAO-B（マオビー）阻害薬　“ドパミン”を減らしてしまう酵素（MAO-B）の働きを抑えるお薬

⇒ エフピーOD錠®、アジレクト錠®、エクフィナ錠®

COMT（コムト）阻害薬　“レボドパ”を減らしてしまう酵素（COMT）の働きを抑えるお薬

⇒ コムタン錠®、スタレボ配合錠L®※1　※1：スタレボは、レボドパ+DCIとCOMT阻害薬の配合錠

③ドパミンの指令を受ける部分（受容体）を刺激するお薬

ドパミン作動薬

ドパミンの指令を受けるドパミン受容体を刺激して、ドパミンに似た作用を示します

⇒ カバサール錠®、パーロデル錠®、ペルマックス錠®、
ミラペックスLA錠®(プラミペキソール塩酸塩LA錠)、ビ･シフロール錠®（プラミペキソール塩酸塩錠）
レキップ錠®、レキップCR錠®、ニュープロパッチ®※2、ハルロピテープ®※2　※2：貼るタイプのお薬

④そのほかの働きをするお薬

抗コリン薬　神経伝達のバランスを整えるお薬

⇒トリヘキシフェニジル塩酸塩錠、アキネトン錠®（ビペリデン塩酸塩錠）、アキネトン細粒®1%

ドパミン放出促進薬　ドパミンの放出をうながすお薬　⇒ シンメトレル錠®（アマンタジン塩酸塩錠）

レボドパ賦活薬　レボドパの作用を強くするお薬　⇒ トレリーフOD錠®

アデノシン A_{2A} 受容体拮抗薬　神経伝達のバランスを整えるお薬　⇒ ノウリアスト錠®

ノルアドレナリン補充薬　神経伝達をうながす成分を補充するお薬　⇒ ドプスOD錠®

最後に…

パーキンソン病の薬物療法は、複数のお薬を組み合わせて服用することがあります。
薬の種類や量が多くなりがちですが、それぞれの薬の効果には意味があり、病気の進行を遅くしたり、症状をやわらげたりするためには、主治医の先生の指示にしたがって、継続して服用することがとても重要になります。

≪参考資料≫ 平成 28 年度 神経変性疾患領域における調査研究班『パーキンソン病の療養の手引き』

次回は、“糖尿病治療における自己注射”をテーマに 2021 年 6 月発行予定です。